最先端技術の分野では

Québec（ケベック）は今日、北米のデジタルエンターテイメントの中心地となっています。ケベック州には、Centre national d'animation et de design (NAD)やInstitut national de l'image et du son (INIS)をはじめとする、IT関連の教育・研究機関があります。技術革新の象徴であるSoftimage社やDiscreet Logic社は、映画『ジュラシック・パーク』や『タイタニック』で用いられた特殊効果を可能にしたソフトウェアを開発しました***Jurassic Park***社や***Titanic***。Ubisoft社のケベックオフィスは、コンピューターゲームの開発およびパブリッシングの分野において世界的な重要拠点となっています。ケベック企業であるHybride Technologies社もまた、大成功を収めたジェームズ・キャメロン監督の3Dアニメーション映画『アバター』の制作に協力しました***Avatar***。ケベックのBeenox Studios (Activision)社は、世界で最も優れたテレビゲーム開発企業の Top50 に入っています。

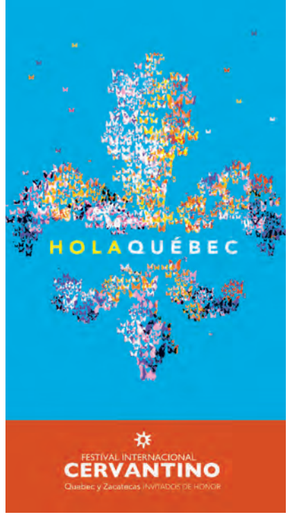
個性で輝く美術館・博物館

ケベックの美術館や博物館は、その専門性と精力的な運営で海外からも注目されています。世界的に権威のある機関と連携し、特に芸術作品の貸出や共同制作そしてケベックの巡回展覧会開催などにおいて協力を重ねています。遺産調度品および芸術作品の保存や修復を専門とするCentre de conservation du Québecでは、ケベック州外でも名の知られた学際的な専門家が活躍しています。

世界遺産の栄誉

ケベック市旧市街の歴史地区は、アメリカ大陸におけるフランス文化の発祥地であり、メキシコ以北で唯一の要塞都市であるという二つの理由から、1985年、ユネスコの世界遺産に登録されました。

写真：GNU



多彩な国際フェスティバルの数々

ケベック州では、約400のイベントやフェスティバルが開催され、芸術分野全体を盛り上げています。たとえば、モントリオール国際ジャズ・フェスティバル、ケベックサマーフェスティバル、モントリオール・フランコフォリ、ジャスト・フォー・ラフ、トランスアメリック・フェスティバル、カルフール・インターナショナル・ド・テアトル、ドラモンドビル国際民族芸能フェスティバル、国際合唱フェスティバル、ラノディエール国際フェスティバルなど、ケベック州内の様々な場所で開催されるフェスティバルは、人々を大いに楽しませています。

また、ケベックは、海外のフェスティバルやブックフェア、その他の各種イベントで、大々的に取り上げられることも多くあります。たとえば、メキシコのグアナファトで開催されたセルバンティーノ国際芸術祭、オンタリオ州トロントでのケベック・ナウ！、スペインのバルセロナで行われたイマジナ・ケベック、スコットランドのグラスゴーでのショーケース・スコットランドで開かれたスポットライト・ケベックなどは、ケベックの生み出す作品の質の高さや、オリジナリティをアピールする文化イベントといえます。

世界に飛び立つケベック文化

ケベック州政府は、海外で活躍するケベックのアーティストたちを支援するため、毎年数百万ドルを投入しています。海外の州政府事務所もまた、ケベックのプロモーションを積極的に推進しています。

ケベック文化は、世界各地の舞台で、北米大陸の希少なフランス語圏としてのケベックの独自性を明らかにする役割を果たしています。ケベックは、作品の独自性、大胆さ、クリエーターの高い能力と才能、芸術分野の活気で世界的に知られています。

写真：Québec（ケベック）市

www.mcccf.gouv.qc.ca
www.calq.gouv.qc.ca
www.sodec.gouv.qc.ca
www.gouv.qc.ca/portail/quebec/international

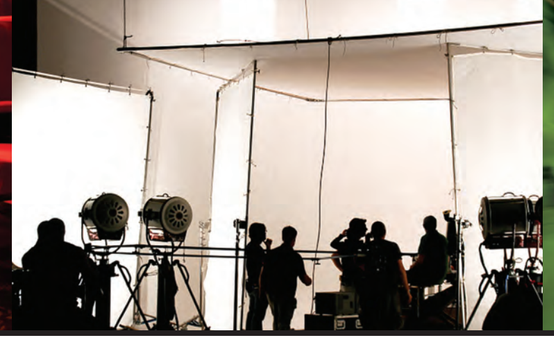
Exit communications

Culture, Communications et Condition féminine
Québec

Québec（ケベック）

世界に広がる活躍の舞台

Québec



ケベックのクリエーターやアーティストたちの素晴らしい才能は、世界中で高く評価されています。
その活躍は幅広い芸術分野にわたり、作品は五大陸を巡っています。

ブランドマークとしての文化

ヨーロッパ系の民族が多く、北米の生活様式を持ち、日常でフランス語を使用。こうした背景からも、ケベックでは文化の多様性が非常に尊重されています。ケベックは、昔から「受け入れの地」でした。ケベックが国際化を進めるここ数十年来、この役割はさらに強まり、その門戸は世界に、そしてケベック州内に存在する多くの文化コミュニティーの活動に開かれています。

アメリカ大陸で、フランス語を維持

ケベックは北米大陸で唯一、フランス語を話す住民が大半を占める地域です。770万人余りの州民のうち、80%近くがフランス語を話します。

文化的表現の多様性を推奨

文化の多様性を擁護し促進するパイオニアとして、ケベック州政府は、世界で最初にユネスコの文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約に賛同しました。

今日、ケベックは文化的な活力であふれています。カナダのアーティストらの海外公演のうち、半数以上をケベックからの作品やアーティストが占めます。ケベック州の人口規模を考えると、その多彩な作品群と国際的な評価の高さは驚くべきことです。これらは、海外においてケベックのイメージを高めるとともに、ケベックのアイデンティティを反映する最も重要な要素の一つになっています。

飛躍する舞台芸術

ケベックが舞台芸術の分野で、特にその名を馳せているジャンルをひとつあげるとすれば、それはサーカス・アーツです。とりわけ、シルク・ドゥ・ソレイユは、この芸術に新たな息吹を与えました。彼らの成功は、シルク・エロワーズ（Cirque Éloize）や7本の指（Les 7 doigts de la main）といった他のカンパニーに道を開くとともに、州立モントリオール・サーカス学校（École nationale de cirque de Montréal）やケベック・サーカス学校（École de cirque de Québec）の創設に貢献しました。

歌に関しては、ますます多くの作曲家や演奏家が、多岐にわたるジャンルでケベックの知名度を上げています。アリアンヌ・モファット、パトリック・ワトソン、レ・カウボーイ・フランガン、メザイユをはじめとする新しい世代が誕生しています。セリーヌ・ディオンやシンプル・プランなど、トップスターの地位を確立した歌手も輩出しています。

ケント・ナガノが音楽監督を務めるモントリオール交響楽団、ヨアフ・タルミが率いるケベック交響楽団、ベルナール・ラバディとレ・ヴィオロン・ドゥ・ロワ、若く才能あふれたオーケストラ指揮者ヤニック・ネゼ＝セガン、そしてオペラ歌手マリー＝ジョゼ・ロード、マリー＝ニコル・ルミュー、カリーナ・ゴーヴァン、音楽家のアラン・ルフェーヴルやマルク＝アンドレ・アムランなどが、クラッシック音楽界に威厳を与えています。

コンテンポラリー・ダンスでは、ケベックは、才能あふれる振付家デイブ・サンピエール、マリー・シュイナールなど、また、カンパニーとしては、ラ・ラ・ラ・ヒューマンステップス、オ・ベルティゴなどを輩出しています。グラン・バレエ・カナディアン・ドゥ・モンレアル は1957年の設立以来、ケベック州内外の観客に、ダンスの様々な側面を披露しています。

ケベックの演劇は、世界中でますます注目度を高めています。すでに多くのケベックの劇作家の作品が、海外で上演されています。その先駆けとなったのが、劇作家ミシェル・トランブレでした。その後、2009年に名高いアヴィニヨン演劇祭で高評を博したワジディ・ムアワッドや、キャロル・フレシェット、ダニエル・ダニ、リズ・ヴェランクールらが続き、その作品群はヨーロッパ公演を実現しています。また、卓越した舞台芸術家であるロベール・ルパージュの舞台作品は、いまや世界中のファンに知られており、海外でも数多くの賞を受賞しています。ケベックはまた、青少年向けの舞台作品が数多く創作される地として知られています。この分野に携わるケベックの劇団の作品は、それぞれの独創性に富んでおり、海外公演でも人気です。とりわけ人形劇では、ケベックは、その見事な糸さばきで知られています！

ビジュアルアーツ・文学

ビジュアルアーツに関しては、ケベックのアーティストたちによる新しい表現方法の模索や創作活動によって、ケベック州内外の観客を魅了する素晴らしい作品が生み出されています。ダヴィッド・アルトメイド、ジョスリン・アルシュリ、ヤナ・スターバック、ジュヌヴィエーヴ・カデュ、ドミニク・ブランなど、ケベックのアーティストは、趣向を凝らしたアプローチで作品を生み出し、その才能を発揮しています。

文学では、クロード・ボーソレイユ、マリー・ラベルジュ、マリークレール・ブレ、ニコラ・ディックナーといった作家の素晴らしい作品が複数の言語に翻訳され、世界で高い評価を得ています。ケベックの作家の才能は、2009年にダニー・ラフェリエールが名高い賞であるメディシス賞を受賞したことによりさらに広まりました。

テレビや映画館のスクリーンで

テレビは、ケベック文化の中で特別な地位を占めています。実際、ケベックはテレビ番組に特別な位置づけをしています。ケベック州内の市場が活発であることを鑑みると、州民のテレビ番組への愛着度の高さがわかります。そして、これはケベック州内にとどまった事ではありません。ケベックで制作された番組は海外で放映されたり、リメイクされたりしています。

ケベック映画は、様々な国際的な映画祭に出品・招待され、各賞を受賞しています。ドゥニ・アルカン監督は『みなさん、さようなら』、フレデリック・パック監督は、アニメーション映画『木を植えた男』でアカデミー賞のオスカーを獲得しました。他にもケベック州出身の映画監督が、カンヌ国際映画祭の短編映画部門のパルムドールや、ベルリン国際映画祭の金熊賞といった非常に権威のある賞を受賞しています。新鋭のグザヴィエ・ドラン監督は、初の作品となる『僕は僕の母を殺した』で多くの賞に輝いています。

文化活動への財政支援

ケベック州政府文化・コミュニケーション・女性の地位担当省（MCCCF）では、毎年6億7千200万ドルの予算を計上し、ケベック文化の支援に割り当てています。文化芸術作品の創作、表現、制作、促進の支援活動を行うケベックカウンシル （CALQ)と、芸術の産業的な側面を発展させる目的を持つケベック文化産業促進公社 （SODEC)は、大臣の管轄下にある2つの公的機関であり、ケベック文化の海外進出を積極的に支援しています。